



ウェルネス分野への RT/ICT 応用

ヒューマンセンシング
はかる×つくる

ユーザに寄り添い、ユーザも気づかないニーズをくみとって、人の暮らしを楽しく充実したものにするシステムやサービスを提供したいと考えています。これには、ロボティクス（RT）や情報通信技術（ICT）欠かせません。これらの技術に加え、人の意図や気持ちを推定する技術（ヒューマンセンシング）を用いて人にやさしいシステムを開発します。

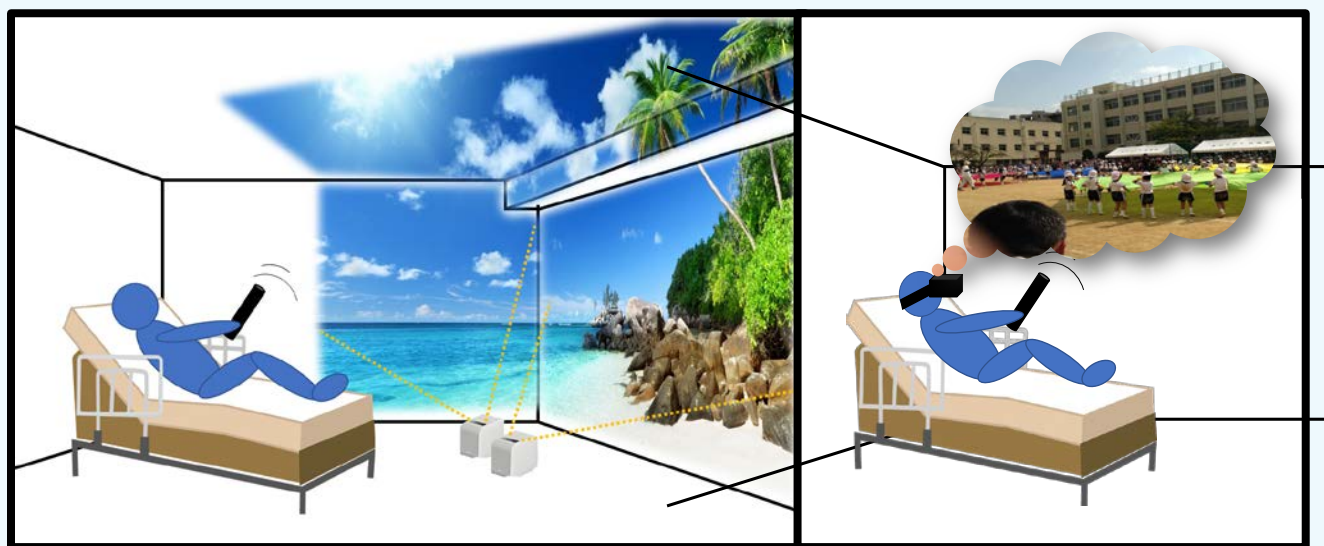
研究例



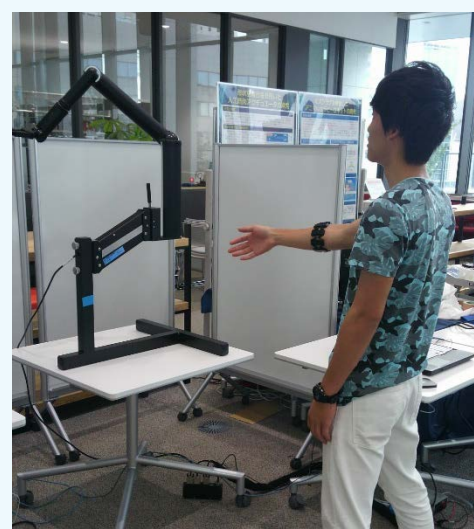
心拍・呼吸の低負担計測 (株) テイ・エステックと共同
心拍・呼吸は人の状態推定に役立ちます。シート内蔵センサで人に負担をかけずに心拍と呼吸を計測します。自動運転の過渡期でのドライバモニタリング、居間やホールなどでの人の状態に応じたロボットインタラクションに応用します。

**高齢者の認知機能評価****国際交通安全学会プロジェクト**

高齢ドライバの事故が増えています。事象関連電位（脳波）と反応時間を用いて人の認知機能を[発見「判断」「操作」]に分けて評価し、ドライバの支援や教育に役立てます。

**造血細胞移植患者のための癒しシステム****国際大阪がんセンターと共同・科研費研究**

移植後に閉鎖的な無菌室ですごす患者さんのために、空間の広がりを感じたり、外界・家族とつながることができるインタラクティブシステムを開発しています。



<http://www.ttools.co.jp/robot/arm.html>

ロボットアームの直観的操作

ロボットアームは障がい者の自律的な生活に寄与しますが、操作が難しい場合があります。アームバンド式の8ch筋電計測装置（Myo, Thalmic Labs Inc.）を用いて、半自律的に動くロボットアームにジェスチャで直観的に介入できるようにします。